

※事務事業コード／ 0110040402

平成 26 年度 事務事業シート

部署名	部 教育委員会	課 図書館	事業年度期限	●無 ○有 (平成 年度～平成 年度)			
会計	一般会計	款・項・目 100404図書館費	新規／継続 (事業区分1)	継続	市民協働	行政主体	総合計画コード 3213
事業名	02図書館運営事業						
目的 (成果)	図書館を利用する幅広い年齢層の住民に対し、生涯学習の中核施設として資料や情報の提供を行い、円滑に図書館を利用できるようにする。						
内容 (概要)	図書資料の受入れ、貸出し、各種団体活動の推進を図る。						

■事業費 (単位:円)

	平成24年度 決算			平成25年度 決算			平成26年度 予算			
事業内容	図書の貸出、図書検索情報提供、図書館協議会、朗読ボランティア育成講座、読書週間記念作品募集及び表彰、夏休み一日図書館員体験講座			図書の貸出、図書検索情報提供、図書館協議会、朗読ボランティア育成講座、読書週間記念作品募集及び表彰、夏休み一日図書館員体験講座			図書の貸出、図書検索情報提供、図書館協議会、朗読ボランティア育成講座、読書週間記念作品募集及び表彰、夏休み一日図書館員体験講座			
財源内訳	国庫支出金			国庫支出金			国庫支出金			
	県支出金			県支出金			県支出金			
	市債			市債			市債			
	その他			その他			その他	18,000		
	一般財源	10,611,513		一般財源	7,348,107		一般財源	11,965,000		
計	10,611,513		計	7,348,107		計	11,983,000			
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	うち臨時分
	01	報酬	150,000	01	報酬	142,500	01	報酬	105,000	
	07	賃金	4,443,220	07	賃金	4,761,870	07	賃金	4,838,000	
	08	報償費	229,968	08	報償費	215,830	08	報償費	216,000	
	11	需用費	618,688	11	需用費	622,893	11	需用費	502,000	
	12	役務費	115,357	12	役務費	99,194	12	役務費	122,000	
	13	委託料	545,580	13	委託料	655,200	13	委託料	883,000	
	14	使用料及び賃借料	4,422,600	14	使用料及び賃借料	771,120	14	使用料及び賃借料	5,230,000	
	19	負担金、補助及び交付金	79,500	19	負担金、補助及び交付金	79,500	19	負担金、補助及び交付金	80,000	
	27	公課費	6,600				27	公課費	7,000	
		決算額計	10,611,513		決算額計	7,348,107		予算現額計	11,983,000	0
(参考)	H24当初予算額	10,642,000		H25当初予算額	7,252,000		伸び率(%) 対・決	63.1	対・予	65.2 +
人件費	職員人件費 0.90 人工	7,261,000		職員人件費 0.90 人工	7,253,000		職員人件費 0.85 人工		6,555,000	
総事業費	歳出+職員人件費	17,872,513		歳出+職員人件費	14,601,107		歳出+職員人件費		18,538,000	

【特記事項】

○25年度主な支出
 臨時職員賃金 4,761,870円
 図書システム使用料 771,120円
 図書システム保守業務委託 655,200円

※平成25年度は、システム更新に向けた準備期間として再リースとしたため減となった。
 平成26年度の使用料及び賃借料の増は図書館システム更新によるため。

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	開館日数	日	年間の本館開館日数	目標	280	280	280
				実績	278	281	
成果指標	貸出人数	人	年間の図書・視聴覚資料貸出人数	目標	25,000	25,000	25,000
				実績	24,393	23,754	
成果指標	入館者数	人	年間の本館入館者数	目標	49,000	49,000	49,000
				実績	48,041	42,980	
成果指標	登録者数	人	年度末における個人登録者数	目標	18,000	19,000	20,000
				実績	17,971	18,462	

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務) B:普通 C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

図書館本館及び千代田分館にて図書資料の貸出し、学習情報の提供を行うとともに読書活動の指導助言につとめ、生涯学習活動の推進を図る。

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

事務の効率化によりサービス業務は対応できた。

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施 B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

住民ニーズに応じた情報提供及び図書館サービスの充実を図りながら運営にしていく必要がある。

■課題と対応方策

課題	図書館資料の利用促進を図る
次年度における対応方策(改善方策)	図書システムの更新をすることにより職員によるレファレンス業務の充実を図る
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	レファレンス業務を充実し図書館機能の向上を図る

■今後の方向性

一次評価【課長評価】

評価者 生涯学習課 中泉栄一 担当課名 図書館

事業の方向性 このまま継続 改善して継続 休廃止(年後を目処) 終了

事業費の方向性 増額 現状維持 減額

次年度の取組方針(改善方針)

新図書システムの導入により、蔵書点検業務等が簡素化され、図書館休館日の減少や、レファレンス業務の拡充など、利用者サービス向上を図る。

二次評価【部長評価】

部長名 教育部長 小松塚隆雄 担当部名 教育委員会

確認 確認

システム更新による利便性向上をPRして、入館者の増につなげてください。指定管理者による先進的な取り組みも調整してください。

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	図書蔵書数	冊	年度末における図書・視聴覚資料蔵書数	目標	126,000	128,000	133,000
				実績	127,890	130,883	
成果指標	図書貸出数	冊	年間の図書・視聴覚資料貸出冊数	目標	87,000	88,000	88,000
				実績	88,330	87,488	
				目標			
				実績			

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務) B:普通 C:低い

＜Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明＞

学習情報の集積機能を有しており市民の誰でもが利用できる。

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

＜Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明＞

図書資料等について県内図書館との相互貸借で利用者の注文に応えた。

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施 B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

＜Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明＞

話題のある図書資料、視聴覚資料の選書により貸出数の変化が期待できる。

■課題と対応方策

課題	限られた予算の中で、地域の実情及び住民のニーズに応じた選書が求められている。
次年度における対応方策(改善方策)	他の図書館と比較し設定数が少ない絵本、紙芝居、雑誌、コミック本等の種類を増やし、より親しみやすい図書館としていく。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	限られた配架書架であるので、社会情勢の変化を考慮した長期的な蔵書計画を策定する。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	生涯学習課 中泉栄一 担当課名 図書館
事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止(年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	多様な方法で多くの情報を収集、検証し、住民ニーズに適した蔵書を揃え、入館者数、図書貸し出し数の増に努める。

二次評価【部長評価】

部長名	教育部長 小松塚隆雄	担当部名	教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認		
	学校図書との情報交換など、読者のニーズを捉える取り組み青検討してください。		

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	ブックスタート実施回数	回	年間のブックスタート事業実施回数	目標	12	12	12
				実績	12	12	
成果指標	ブックスタートパック最終受付者数	人	ブックスタート事業に参加した4か月児及びその保護者	目標	330	330	330
				実績	321	292	
				目標			
				実績			

■事務事業の点検

必要性の点検

<input type="checkbox"/>	法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある
<input type="checkbox"/>	事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する
<input checked="" type="checkbox"/>	社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)
【必要性 Total判定】□	
<input type="radio"/>	A:高い(義務)
<input checked="" type="radio"/>	B:普通
<input type="radio"/>	C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

絵本を介し心安らぐ子育てを支援し、読書の動機づけを図り生涯学習活動の足掛かりとする。

目標達成状況の点検

<input type="checkbox"/>	活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた
<input checked="" type="checkbox"/>	成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた
<input type="checkbox"/>	「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた
【目標達成状況 Total判定】	
<input checked="" type="radio"/>	A:目標よりも大きな成果が得られた
<input type="radio"/>	B:概ね目標の成果が得られた
<input type="radio"/>	C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

4ヶ月児健診の際に実施しているので参加率が高くまた、民生委員児童委員等が個別に対応しているため子育ての相談にも応じている。

実施内容・方法の点検

<input type="checkbox"/>	社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある
<input type="checkbox"/>	当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている
<input type="checkbox"/>	民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある
<input type="checkbox"/>	コストを下げる工夫が考えられる
<input checked="" type="checkbox"/>	成果を高める工夫が考えられる
【実施内容等 Total判定】□	
<input type="radio"/>	A:見直す余地があり直ぐに実施
<input checked="" type="radio"/>	B:見直す余地があるが時間が必要
<input type="radio"/>	C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

今後も、民生委員児童委員・ブックスタートボランティアの協力を得て実施。

■課題と対応方策

課題	図書カード登録者が少なく、図書館の利用とが結びついていない。
次年度における対応方策(改善方策)	参加者に対ボランティアからの図書館利用をPRしてもらう。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	対象者の保護者に対しこの事業の持つ目的や大切さをPRし、絵本の配布事業に終わらないようにする。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	生涯学習課 中泉栄一 担当課名 図書館
事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止(年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	ただの絵本配付事業に終わらせず、同事業をきっかけに、親子を図書館の新しい顧客として開拓、定着できるような方策を検討、実施する。

二次評価【部長評価】

部長名	教育部長 小松塚隆雄	担当部名	教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認		
	発達段階に合わせた本の紹介など、本好きの親子を増やす取り組みが必要です。		